

安全データシート

作成日 2015年10月8日
管理コード 14Dec10-004

Buckman
ASIA-PACIFIC

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	キルパー
供給者の会社名	バックマンラボラトリーズ株式会社
住所	東京都中央区八重洲2-8-8
電話番号	03-6202-1515
FAX番号	03-3275-8080
緊急連絡電話番号	03-6202-1515
推奨用途及び使用上の制限	農業用土壌燻蒸剤

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	引火性液体 区分外 自然発火性液体 区分外 水反応可燃性化学品 区分外
健康有害性	急性毒性(経口) 区分4 急性毒性(経皮) 区分4 皮膚腐食性及び刺激性 区分2 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2B 皮膚感作性 区分1 生殖毒性 区分2 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分2(血液) 特定標的臓器毒性(単回ばく露) 区分3(気道刺激性)
環境有害性	水生環境有害性(急性) 区分1 水生環境有害性(長期間) 区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

警告
飲み込んだり、皮膚に接触すると有害
皮膚及び眼刺激
アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
血液の障害のおそれ
呼吸器への刺激のおそれ
長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き
安全対策

使用前に取扱説明書を入手すること。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

容器を密閉しておくこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。
 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。

飲み込んだ場合、気分が悪いときは、医師に連絡すること。

口をすすぐこと。
 ばく露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 漏出物は回収すること。
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
 施錠して保管すること。
 換気の良い冷所で保管すること。

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別

混合物

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲	化学式	官報公示整理番号		CAS番号
			化審法	安衛法	
メチルジチオカルバミン酸ナトリウム	33%	HSC(S)NH CH3	(2)-1797	既存	137-42-8
水	67%	H2O	対象外(天然物)	既存	7732-18-5

分類に寄与する不純物及び安定化添加物

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

皮膚に付着した場合

気分が悪い時は、医師に連絡すること。
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

皮膚を速やかに洗浄すること。
 多量の水と石鹼で洗うこと。

	皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
	眼の刺激が持続する場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 ばく露又はその懸念がある場合は、医師の診断、手当てを受けること。
5. 火災時の措置	
消火剤	小火災：粉末消火剤、二酸化炭素、散水、一般の泡消火剤。
使ってはならない消火剤 特有の危険有害性	大火災：散水、水噴霧、一般の泡消火剤。 棒状注水。 加熱により容器が爆発するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	吸入すると有害となるおそれがある。 接触により皮膚や眼に炎症を起こすおそれがある。 消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
消火を行う者の保護	火災に巻き込まれたタンクから常に離れる。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。 防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎない。 空気式呼吸器(SCBA)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
	関係者以外は近づけない。 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
	適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
	漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用する。
環境に対する注意事項	風上に留まる。 低地から離れる。 立ち入る前に、密閉された場所を換気する。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
	環境中に放出してはならない。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
	希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法・機材

危険でなければ漏れを止める。
 少量の場合、砂あるいは不燃性吸収材を用いて集め、容器に入れて後で廃棄する。
 大量の場合、液体の前方にせきを作り、後で廃棄する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。

安全取扱注意事項

使用前に使用説明書を入手すること。
 すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。

接触、吸入又は飲み込まないこと。
 排気用の換気を行うこと。
 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

接触回避
衛生対策

取扱い後はよく手を洗うこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
 環境への放出を避けること。
 『10. 安定性及び反応性』を参照。
 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
 取扱い後はよく手を洗うこと。
 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保管

安全な保管条件

保管場所には化学品を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。
 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。
 禁煙。

安全な容器包装材料

酸化剤から離して保管する。
 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。
 施錠して保管すること。
 国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

8. ばく露防止及び保護措置

	管理濃度	許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標)	
		日本産衛学会 (2013年版)	ACGIH (2014年版)
メチルジチオカルバミン酸ナトリウム	未設定	未設定	未設定

設備対策

本製品を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
 高熱取扱いで、工程で蒸気、ヒューム、ミストが発生するときは、換気装置を設置する。

保護具

呼吸器の保護具

必要に応じて個人用呼吸器保護具を使用すること。
 換気が不十分な場合には、適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具
眼の保護具

保護手袋を着用すること。
 眼の保護具を着用すること。

保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)

皮膚及び身体の保護具 保護衣を着用すること。
必要に応じて個人用の保護衣、保護面を使用すること。

9. 物理的及び化学的性質

外観

物理的状态
形状
色

液体
液体
黄色～緑黄色
硫化物臭
データなし
10
8-9(100ppmの場合)

臭い
臭いのしきい(閾)値
pH

融点・凝固点
沸点、初留点及び沸騰範囲
引火点
蒸発速度(酢酸ブチル=1)
燃焼性(固体、気体)
燃焼又は爆発範囲

下限
上限

<0°C
>100°C
引火点なし (タグ密閉式)
データなし
該当しない
データなし
データなし
データなし
データなし
1.15g/cm³ (25°C)
冷水、温水共に易溶。
データなし
データなし
データなし
データなし

蒸気圧
蒸気密度(空気=1)
比重(密度)
溶解度
n-オクタノール/水分配係数
自然発火温度
分解温度
粘度(粘性率)

10. 安定性及び反応性

反応性
化学的安定性
危険有害反応可能性

情報なし
50°Cで30日以上安定である。
過剰な圧力又は熱を放出する危険有害な反応又は重合は起こらない。

避けるべき条件
混触危険物質
危険有害な分解生成物

情報なし
強酸、強酸化剤、アルミニウム腐食性物質。
酸性化すると、二硫化炭素、ジメチルアミンが発生する。
熱分解で硫化水素の蒸気が発生する。
火災時に、一酸化炭素、二酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物、メチルイソシアネートが発生する。

11. 有害性情報

急性毒性

経口

ラット、LD50=1170mg/kgの記述(Buckman Laboratories, Inc. 製品SDS(作成日 2010/3/15))から、GHS:区分4「飲み込むと有害」に該当する。

経皮

ウサギ、LD50=1470mg/kgの記述(Buckman Laboratories, Inc. 製品SDS(作成日 2010/3/15))から、GHS:区分4「皮膚に接触すると有害」に該当する。

吸入(蒸気)
吸入(ミスト)

データがなく分類できない。
データがなく分類できない。

皮膚腐食性及び刺激性	メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分2で、区分2の成分濃度の合計が濃度限界(10%)以上のため、GHS:区分2「皮膚刺激」に該当する。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分2Bで、区分2Bの成分濃度の合計が濃度限界(10%)以上のため、GHS:区分2B「眼刺激」に該当する。
呼吸器感作性 皮膚感作性	データがなく分類できない。 メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分1で濃度限界(1.0%)以上のため、GHS:区分1「アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ」に該当する。
生殖細胞変異原性 発がん性	データ不足のため分類できない。 「実験動物では発がんの影響を示す情報がある」の記述(Buckman Laboratories, Inc. 製品SDS(作成日2010/3/15))はあるが、データ不足のため分類できない。
生殖毒性	メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分2で濃度限界(3.0%)以上のため、GHS:区分2「生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い」に該当する。
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	成分濃度が濃度限界(10.0%)以上の区分2の成分はメチルジチオカルバミン酸ナトリウム(血液)であるため、GHS:区分2(血液)「血液の障害のおそれ」に該当する。 「動物実験では皮膚、肝臓、膀胱が標的臓器とされる」の記述(Buckman Laboratories, Inc. 製品SDS(作成日2010/3/15))の記述はあるが、単回/反復の区別はなく、データも不足のため採用しない。
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分3(気道刺激性)で、成分濃度合計が濃度限界(20%)以上のため、GHS:区分3(気道刺激性)「呼吸器への刺激のおそれ」に該当する。
吸引性呼吸器有害性	データ不足のため分類できない。 「動物実験では皮膚、肝臓、膀胱が標的臓器とされる」の記述(Buckman Laboratories, Inc. 製品SDS(作成日2010/3/15))の記述はあるが、単回/反復の区別はなく、データも不足のため採用しない。
12. 環境影響情報	
水生環境有害性(急性)	メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分1で、区分1の成分濃度×毒性乗率の濃度合計が濃度限界(25%)以上のため、GHS:区分1「水生生物に非常に強い毒性」に該当する。
水生環境有害性(長期間)	メチルジチオカルバミン酸ナトリウムが区分1で、区分1の成分濃度×毒性乗率の濃度合計が濃度限界(25%)以上のため、GHS:区分1「長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性」に該当する。
生態毒性 オゾン層への有害性	魚類(ブルーギル)LC50=0.175mg/L モンリオール議定書の附属書に列記されたオゾン層破壊物質を含まないため分類されない。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。

廃棄物の処理を依頼する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。

汚染容器及び包装

容器は清浄してリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。

空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国際規則

Regulatory Information by Sea Complied with IMO.

UN No. 3082
 Proper Shipping Name ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.
 Class 9
 Packing Group III
 Marine Pollutant P
 Harmful Liquid Substances Not Applicable

Regulatory Information by Air Complied with ICAO/IATA.

UN No. 3082
 Proper Shipping Name Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s.

国内規制

Class 9
 Packing Group III
 陸上規制 非該当
 海上規制情報 船舶安全法の規定に従う。
 国連番号 3082
 品名 環境有害物質(液体)
 クラス 9
 容器等級 III
 海洋汚染物質 P
 有害液体物質 非該当
 航空規制情報 航空法の規定に従う。
 国連番号 3082
 品名 環境有害物質(液体)
 クラス 9
 等級 3

特別の安全対策

輸送の前に容器の破損、腐食、漏れ等のないことを確かめる。

輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れを生じないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。

緊急時応急措置指針番号

重量物を上積みしない。
171

15. 適用法令

船舶安全法
航空法

有害性物質(危規則第3条危険物告示別表第1)
その他の有害物件(施行規則第194条危険物告示別表
第1)

16. その他の情報

連絡先
参考文献

バックマンラボラトリーズ株式会社
NITE GHS分類公表データ
EU CLP Regulation, AnnexVI
RTECS(2006-2011)

Buckman Laboratories, Inc. 製品SDS(作成日
2010/3/15)

記載内容は、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、現時点における化学又は技術に関する全ての情報が検討されているわけではありませんので、いかなる保証をなすものではありません。又、注意事項は、通常の取り扱いを対象としたものであります。特殊な取り扱いの場合には、この点のご配慮をお願いします。